



2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月10日

上場会社名 日東精工株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5957 URL <https://www.nittoseiko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 材木 正己
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務部門担当 (氏名) 松本 真一 TEL (0773) 42-3111
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	30,227	28.9	2,665	272.6	2,837	240.8	1,807	304.9
2020年12月期第3四半期	23,459	△8.0	715	△62.9	832	△59.8	446	△67.7

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 2,494百万円 (—%) 2020年12月期第3四半期 224百万円 (△83.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	48.98	—
2020年12月期第3四半期	12.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	49,785	31,911	57.4
2020年12月期	46,222	29,858	58.1

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 28,588百万円 2020年12月期 26,868百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	4.00	—	4.50	8.50
2021年12月期	—	7.50	—	—	—
2021年12月期（予想）	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	24.6	3,200	145.4	3,300	132.7	2,000	161.5	54.15

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期 3 Q	39,985,017株	2020年12月期	39,985,017株
② 期末自己株式数	2021年12月期 3 Q	3,051,444株	2020年12月期	3,166,909株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期 3 Q	36,892,938株	2020年12月期 3 Q	36,802,723株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(企業結合等関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナワクチンの普及による経済活動正常化の進展や世界経済の回復による輸出の増加などにより、製造業を中心に好調に推移していましたが、後半は、需要の急激な増加や、東南アジアを中心とする新型コロナウイルスの感染拡大による工場の閉鎖により、世界的な半導体不足・部品供給網の混乱を招き、力強さを欠く状況となりました。世界経済においても、先進国や新興国を中心にインフレが急速に加速するなど、先行き不透明な状況となっております。

このような経営環境において、当社グループは、2021年度経営方針「高い目標の達成を、高い志で目指す企業集団になろう」のもと、過去最高業績の達成を目標に掲げ、新たな事業を含む事業領域の拡充、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたモノづくり改革、環境に貢献する価値ある新製品の創出などを積極的に展開すると同時に、取引先との精度の高い情報共有に努め、生産体制の正常化に取り組みました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は302億2千7百万円（前年同期比28.9%増）、営業利益は26億6千5百万円（前年同期比272.6%増）、経常利益は28億3千7百万円（前年同期比240.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億7百万円（前年同期比304.9%増）となりました。

セグメント別の概況につきましては、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、「メディカル事業」を追加したことに伴い、報告セグメントを従来の「ファスナー事業」、「産機事業」及び「制御事業」の3区分から、「ファスナー事業」、「産機事業」、「制御事業」及び「メディカル事業」の4区分に変更しております。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

<ファスナー事業>

当事業につきましては、主な需要先である自動車関連業界を中心に半導体不足による生産調整の影響で需要が減少するものの、コロナ禍における自粛生活やテレワークを背景としたゲーム機・パソコン向け精密ねじの需要や、電子制御の進化に伴う車載用ECU向け一般ねじの需要が好調に推移しました。また、昨年市場に投入した高精度で大量生産を可能にした「ギヤ部品」の需要が増加しました。一方、利益面においては、原材料価格高騰の影響はあるものの、グループ全体の経費削減施策の効果などにより大きく伸長しました。

このような状況のもと、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向け需要の増加が見込まれる自動車関連業界や電池業界を中心に、強固な異種金属接合を可能にする「AKROSE」や「AKROSE HYBRID」、新製品「新型クリンチングスタッドボルト」や「ギヤ部品」の販売促進に取り組みました。また、インドネシアの子会社において、製品供給体制の強化を図り、ジャカルタ郊外東エリアの需要拡大に努めました。

この結果、売上高は207億4千8百万円（前年同期比25.2%増）、営業利益は12億1千5百万円（前年同期比494.7%増）となりました。

<産機事業>

当事業につきましては、国内外ともに半導体不足に伴う需要先工場の一部稼働停止により設備投資が抑制される一方、標準機は、自動車のCASEに関わる設備や、コロナ禍における自粛生活でDIY用電動工具向け設備などの需要が増加し堅調に推移しました。自動組立ラインは、住宅関連設備や照明器具製造設備を中心に需要が増加しました。

このような状況のもと、生産現場の省人化、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における安全・安心なもののづくりに貢献する、協働ロボットの需要増加を見据え、ユニバーサルロボット社の「UR+」製品認証を取得し、ねじ締めユニット「PD400UR」を市場に投入しました。また、積極的なバーチャル展示会への出展により幅広い業界の需要喚起に努めました。併せて、製造工程における検査体制の強化、経費削減など低重心経営に取り組みました。

この結果、売上高は55億1百万円（前年同期比32.1%増）、営業利益は13億5千9百万円（前年同期比104.5%増）となりました。

<制御事業>

当事業につきましては、流量計は、コロナ禍における消毒液や巣ごもり食品の需要増加を背景に、医薬品業界や食品業界で好調に推移しました。海外においては、船舶関連の排ガス規制強化に伴う信号出力機能付への更新需要や、韓国の自動車関連業界で需要が増加しました。システム製品は、ものづくり補助金を利用した省人化設備の需要が増加しました。地盤調査機「ジオカルテ」は、部品供給不足・材料価格の高騰による住宅着工への影響があるものの、昨年市場へ投入した「ジオカルテⅣ」への活発な買い替え需要により好調に推移しました。

このような状況のもと、繊細な部品の検査過程における傷付きを防止する小物部品専用検査選別装置「ミストロボタイプ」を開発し、新たな需要の拡大に努めました。また、子会社において、水分測定と電位差滴定など、同時に複数の分析を可能にする自動滴定装置「GT-310」、微量窒素・硫黄・塩素分析装置「NSX-5000Vシリーズ」を市場に投入しました。

この結果、売上高は39億5千3百万円（前年同期比46.3%増）、営業利益は1億7百万円（前年同期は営業損失1億5千3百万円）となりました。

<メディカル事業>

当事業につきましては、新型コロナウイルスの継続的な感染拡大を受け、医療従事者の離職や患者の受診抑制による利益の圧迫などの医療資源不足、医療機関への訪問自粛など、事業環境は厳しい状況となりました。

このような状況のもと、医療用照明器「フリーレッド」については、固定用ブラケットの要望を受け、製品化を進めるとともに、医療機器販売会社を通じた販路拡大に取り組み、臨床試用の拡大に努めました。また、「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の製品開発を加速するための組織の変革、コンソーシアムによる臨床試験および製造体制の構築など、早期の製品化に向けた取り組みを推進しました。

この結果、売上高は2千3百万円（前年同期比62.0%増）、営業損失は1千7百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ35億6千3百万円増加し、497億8千5百万円となりました。これは主に、現金及び預金が15億2千6百万円、電子記録債権が8億6千7百万円増加したことなどによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ15億1千万円増加し、178億7千4百万円となりました。これは主に、電子記録債務が8億1千万円、賞与引当金が3億8千1百万円増加したことなどによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ20億5千3百万円増加し、319億1千1百万円となりました。これは主に、利益剰余金が13億6千1百万円、為替換算調整勘定が2億5千6百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は概ね計画通りに推移しており、2021年12月期の業績予想に変更はありません。

なお、今後、業績予想修正の必要が生じた場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,287,052	10,813,363
受取手形及び売掛金	8,027,676	8,335,423
電子記録債権	2,515,482	3,383,008
有価証券	—	250,792
商品及び製品	2,503,691	3,156,195
仕掛品	2,181,590	2,136,622
原材料及び貯蔵品	2,231,370	2,413,618
未収入金	724,253	566,584
その他	239,134	501,234
貸倒引当金	△5,722	△7,370
流動資産合計	27,704,529	31,549,472
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,618,797	3,990,869
機械装置及び運搬具（純額）	2,334,199	2,637,876
土地	5,285,690	5,313,472
建設仮勘定	1,208,096	599,035
その他（純額）	486,438	469,573
有形固定資産合計	12,933,221	13,010,827
無形固定資産		
ソフトウェア	406,178	403,070
のれん	647,406	580,005
顧客関連資産	80,675	68,150
技術関連資産	271,950	249,900
その他	15,690	21,190
無形固定資産合計	1,421,900	1,322,316
投資その他の資産		
投資有価証券	1,820,031	1,579,711
繰延税金資産	828,006	769,290
退職給付に係る資産	884,154	922,947
長期預金	80,000	80,000
その他	551,433	552,075
貸倒引当金	△1,000	△1,000
投資その他の資産合計	4,162,626	3,903,025
固定資産合計	18,517,748	18,236,170
資産合計	46,222,277	49,785,642

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,054,768	4,378,617
電子記録債務	2,619,652	3,430,429
短期借入金	2,847,302	2,579,394
未払金	237,115	221,348
未払法人税等	407,441	706,723
賞与引当金	182,064	563,675
その他	1,269,967	1,332,223
流動負債合計	11,618,312	13,212,411
固定負債		
長期借入金	897,501	903,279
役員退職引当金	83,992	94,109
役員株式給付引当金	40,488	51,513
繰延税金負債	437,701	408,360
退職給付に係る負債	2,681,596	2,641,118
その他	604,657	563,807
固定負債合計	4,745,937	4,662,187
負債合計	16,364,250	17,874,599
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,522,580	3,522,580
資本剰余金	2,637,467	2,674,360
利益剰余金	22,565,069	23,926,103
自己株式	△1,279,736	△1,254,354
株主資本合計	27,445,380	28,868,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	86,514	114,252
為替換算調整勘定	△597,824	△340,873
退職給付に係る調整累計額	△65,749	△54,042
その他の包括利益累計額合計	△577,058	△280,662
非支配株主持分	2,989,706	3,323,015
純資産合計	29,858,027	31,911,043
負債純資産合計	46,222,277	49,785,642

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	23,459,561	30,227,849
売上原価	18,073,969	22,421,949
売上総利益	5,385,591	7,805,899
販売費及び一般管理費	4,670,133	5,140,246
営業利益	715,457	2,665,652
営業外収益		
受取利息	27,142	22,893
受取配当金	12,796	9,565
受取賃貸料	70,530	69,524
為替差益	—	31,492
持分法による投資利益	5,256	23,798
その他	188,318	124,227
営業外収益合計	304,045	281,502
営業外費用		
支払利息	18,798	16,497
賃貸収入原価	58,794	62,537
為替差損	48,985	—
有価証券評価損	35,931	—
その他	24,452	30,648
営業外費用合計	186,961	109,683
経常利益	832,541	2,837,471
特別利益		
固定資産売却益	157	4,676
投資有価証券売却益	1,441	121,762
特別利益合計	1,598	126,439
特別損失		
固定資産処分損	2,158	4,394
投資有価証券売却損	103	—
特別損失合計	2,262	4,394
税金等調整前四半期純利益	831,877	2,959,516
法人税、住民税及び事業税	279,260	886,134
法人税等調整額	38,110	17,629
法人税等合計	317,370	903,764
四半期純利益	514,506	2,055,752
非支配株主に帰属する四半期純利益	68,170	248,581
親会社株主に帰属する四半期純利益	446,336	1,807,170

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	514,506	2,055,752
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41,887	29,670
為替換算調整勘定	△262,598	396,392
退職給付に係る調整額	13,232	11,707
持分法適用会社に対する持分相当額	1,251	880
その他の包括利益合計	△290,001	438,650
四半期包括利益	224,505	2,494,403
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220,823	2,103,567
非支配株主に係る四半期包括利益	3,681	390,835

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症については、国、地域ごとに感染状況が異なり、収束時期を正確に予測することは困難ですが、ワクチン普及による経済活動再開に伴い需要は徐々に回復していくと仮定し、のれんを含む固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。

なお、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などによる仮定および会計上の見積りについて、重要な変更はありません。しかしながら、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

2020年4月1日に行われた日東精工アナリテック株式会社(2020年4月1日付で株式会社三菱ケミカルアナリテックより商号変更)との企業結合において、前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

取得日現在において無形固定資産である顧客関連資産に59,000千円、技術関連資産に294,000千円、繰延税金負債に108,018千円が配分された結果、暫定的に算定されたのれんの金額は910,478千円から282,367千円減少し、628,111千円となっております。

なお、のれん及びのれん以外の無形固定資産に配分された顧客関連資産及び技術関連資産の償却期間は10年であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	ファスナー	産機	制御	メディカル	計	
売上高						
外部顧客への売上高	16,577,032	4,165,257	2,702,566	14,705	23,459,561	23,459,561
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	16,577,032	4,165,257	2,702,566	14,705	23,459,561	23,459,561
セグメント利益又は損失(△)	204,379	664,757	△153,814	134	715,457	715,457

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	ファスナー	産機	制御	メディカル	計	
売上高						
外部顧客への売上高	20,748,937	5,501,592	3,953,489	23,828	30,227,849	30,227,849
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	20,748,937	5,501,592	3,953,489	23,828	30,227,849	30,227,849
セグメント利益又は損失(△)	1,215,527	1,359,596	107,932	△17,404	2,665,652	2,665,652

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「ファスナー事業」に含まれていた医療機器の製造・販売を行う「メディカル事業」について、新たな事業の柱としての将来の量的重要性及び質的重要性を考慮し、報告セグメントとして記載する方法に変更し、報告セグメントを従来の「ファスナー事業」、「産機事業」及び「制御事業」の3区分から、「ファスナー事業」、「産機事業」、「制御事業」及び「メディカル事業」の4区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。